

広島城北今昔物語

普段になげなく通っている場所も、城下町であった時は、今は別の顔がありました。当時の様子を想像して通るのも楽しいかもしれません。広島城下北郊の史跡を訪ねます。

広島に築城を思い立った高田郡山城主の毛利輝元は、佐東郡五箇村と呼ばれ舟運の発達した太田川河口に着目しました。二葉山や己斐山や神田山に登り思案をし、「在間」の島上に城地を見立てました。「見立山」とも呼ばれた神田山と遠く巖島を、二葉と己斐の山稜をそれぞれ見通し、その交点となる在間の地に名城「広島城」を建てたといわれます。

山県郡太田郷より流れる母なる太田川は、下流においてデルタ(三角州)を形成し、各支流に分かれ広島湾に流れています。三篠・白鳥・牛田の地区を分け、東西に分流する形状で「二股川」と呼ばれ、古代には京橋川が安芸と佐伯の郡界でした。「白鳥」は古社の礎神社の古名の苜島や箱島が起源で、やがて訛って現在の地名となりました。奈良西大寺の荘園とされた「牛田」は潮田(うしおだ)が起源ともいわれ、舟運が発達し流域の文化が栄えました。太田川や支流が並び篠(笹)の葉を重ねる形状で、御篠の地名がおこり「三篠」となりました。

「不動院」(旧安国寺)では戦国時代に安国寺恵瓊が活躍し、毛利輝元は天正19年(1591)に112万石余を領し「広島城」に入城しました。続く福島正則は城下の整備を行い、西国街道を現在の地に付け替え、出雲石見街道を横川橋から北方方面へと結びました。さらに、元和5年(1619)に入城した浅野長晟は、42万石余を領し藩政の基礎をつくり、翌年に名園「縮景園」を造営し、牛田地区の天神岩清水から竹樋で用水を引いたと伝えられています。

この城北大絵図で白鳥をはじめ三篠や牛田の各地区に、現在も残る城下町北郊の面影を眺め歩いてみましょう。「広島城下大絵図」とともに、江戸時代を旅してみてください。

北郊の町名あれこれ

今は消え去った昔の地名は、その時代にいきいきと暮らす人々の様子が目に浮かぶようです。母なる太田川や京橋川をのぞみ、江戸時代には城下町と北郊の村々が存在していました。

◆白鳥地区：中区◆

広島城下で最古と伝わる礎神社の古名は、平安末期の「安芸国神名帳」に「苜島明神」と、一書に「箱島」ともありその形状を伝え、広島湾頭尾の孤島で佐東郡五箇村の一部でした。元和5年(1619)の「安芸国知行帳」に箱島とあり、その後訛って「白鳥」となったとされています。「知新集」では、城下中通組に属す東白鳥町と西白鳥町と、新聞組に属す白鳥村を載せています。また、東町には三軒船屋や立味小路を西町には新小路を、白鳥村は安芸郡と沼田郡に属し、九軒町や薬師の町や一本木などの地名を載せています。一本木には下級武士の居住する「百軒多聞」もあり、西町には城下の火の見櫓三箇所の一つがありました。

◆牛田地区：東区◆

古くは宝龜11年(780)の「西大寺資料流記帳」に、「安芸国安芸郡牛田莊園二巻」を載せ、同書の建久2年(1191)の注進状案には壘田79町があったと記されます。延喜元年(901)に菅原道真が二葉の里太宰原に船を着け、尾長天満宮の御れとなりました。正応2年(1289)に在官人田所氏は牛田村に領地を所有し、後の新山村も領地の一部となりました。武田氏は文龜3年(1503)に神八幡宮を、永正8年(1511)に早稲田八幡宮を勧請し、その後大内氏から毛利氏へ牛田の地を受け継ぎ、弘治3年(1557)に毛利隆元は舟方給を設けました。慶長6年(1601)の惣領検地では牛田村と新山村の二村に分かれ、文政8年(1825)の「芸藩通志」では田島が半々で綿作を主とし、潮入りの土地柄を伝える「潮田」(うしおだ)の名残を今も留めています。

◆三篠地区：西区◆

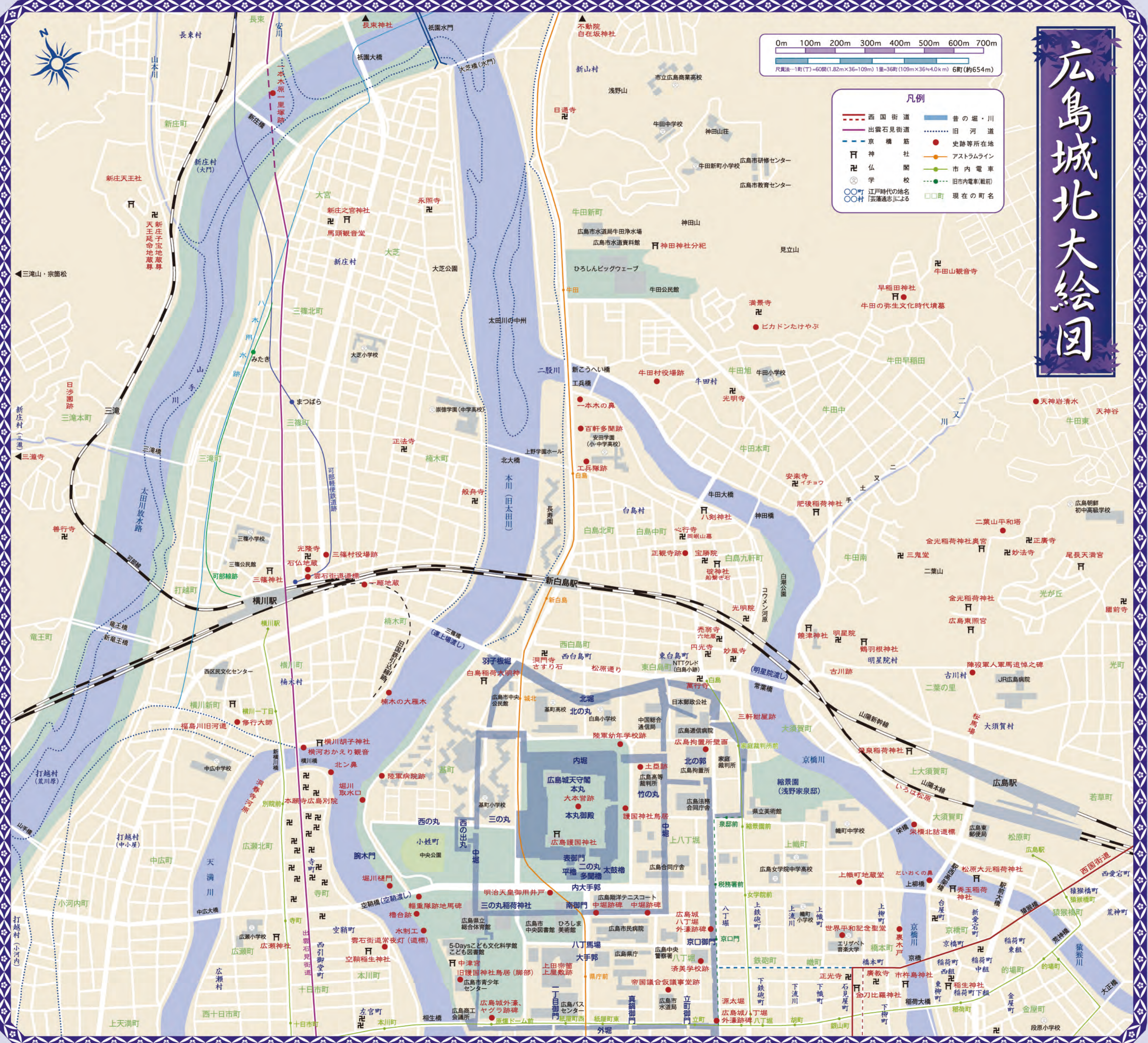
三篠地区は江戸時代には沼田郡に属し、新庄村と楠木村と打越村に分かれ、明治22年(1889)に合併し三篠村に、同31年(1898)には安佐郡に属し、同40年(1907)に町制を敷きました。「新庄村」は古代の佐伯郡桑原郷で、それに連なる中世の桑原新庄の一部に由来し、村内を通る出雲石見街道には、長東村界の一本木原に一里塚が置かれました。「楠木村」は別府楠木といふ村内の大楠木に因み地名となり、交通利便な土地柄に茄子や藍が作られました。「打越村」は太田川から天満川などが分岐し、洪水時に堤防を崩し内部の冠水を川越して排水し内越と呼ばれたといわれ、川筋の各地区では潮入りの土地柄で綿作が盛んに行われました。

広島城北大絵図



凡例

- 西国街道
- 出雲石見街道
- 京橋筋
- ⌘ 神社
- ⌘ 仏閣
- ⊙ 学校
- 町
- 江戸時代の地名
- 芸藩通志による
- 昔の堀・川
- 旧河道
- 史跡等所在地
- アストムライン
- 市内電車
- 旧市内電車(戦前)
- 現在の町名



郡名の変遷

佐伯(さへき)	安芸(あき)	平安初期
佐西(さいせい)	安芸(あき)	平安末期
佐伯(さへき)	安芸(あき)	寛文4年(1664)
佐伯(さへき)	安芸(あき)	明治31年(1898)
佐伯(さへき)	安芸(あき)	昭和48年(1973)

広島城歴代城主

- 1 毛利輝元 (1591~1600)
 - 2 福島正則 (1600~1619)
 - 3 浅野長晟 (1619~1632)
 - 4 浅野光晟 (1632~1672)
 - 5 浅野綱晟 (1672~1673)
 - 6 浅野綱兵 (1673~1708)
 - 7 浅野吉長 (1708~1752)
 - 8 浅野宗重 (1752~1763)
 - 9 浅野重晟 (1763~1799)
 - 10 浅野奔賢 (1799~1830)
 - 11 浅野奔重 (1831~1858)
 - 12 浅野慶福 (1858~1858)
 - 13 浅野長訓 (1858~1869)
 - 14 浅野長勲 (1869~1869)
- 城主名：○ 藩主代数 () 治世期間

掲載史跡名

白鳥地区

- 礎神社(いかりじんじや)
- 八剣神社(やつるぎじんじや)
- 洞門寺(とうもんじ)
- 心行寺(しんぎょうじ)
- 宝勝院(ほうしょういん)
- 光明院(こうみょういん)
- 亮翁寺(とくおうじ)
- 妙風寺(みょうふうじ)
- 饒津神社(にぎつじんじや)

牛田地区

- 神田神社(かんだじんじや)
- 早稲田神社(わせだじんじや)
- 安楽寺(あんらくじ)
- 不動院(ふどういん)
- 日通寺(にっつうじ)

三篠地区

- 三篠神社(みさきじんじや)
- 新庄之宮神社(しんじやのみやじんじや)
- 三瀬寺(みたきじ)
- 長東神社(ながつかじんじや)